

年間指導計画表(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高等学校 現代の国語(第一学習社)</p> <p>副教材 新版 意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)</p> <p>新版三訂 ニューエイジ 現代文 基礎1(第一学習社)</p> <p>進研 WINSTEP 現代文1(新課程版)(ラーズ) プレミアムカラー国語便覧(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p>
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	<p>『本当の自分』幻想 平野啓一郎</p> <p>「羅生門」芥川龍之介</p> <p>「水の東西」山崎正和</p> <p>「鏡」村上春樹</p>	・定期考査など	・定期考査など	・課題の提出 ・授業態度
	評価点	50点	50点	50点
2回	<p>「砂に埋もれたル・コルビュジェ」原田マハ</p> <p>『文化』としての科学 池内了</p> <p>「不均等な時間」内山節</p>	・定期考査など	・定期考査など	・課題の提出 ・授業態度
	評価点	50点	50点	50点
3回	<p>「夢十夜」夏目漱石</p> <p>「ものことば」鈴木孝夫</p> <p>「現代の『世論操作』」林香里</p>	・定期考査など	・定期考査など	・課題の提出 ・授業態度
	評価点	50点	50点	50点
4回	<p>「フェアな競争」内田樹</p> <p>「無色の色」港千尋</p> <p>「城の崎にて」志賀直哉</p>	・定期考査など	・定期考査など	・課題の提出 ・授業態度
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	『『本当の自分』幻想』平野啓一郎	・主題に至る論の構造を把握し、論展開について考える	4
	5	「羅生門」芥川龍之介	・登場人物の行動と心理をもとに場面展開を捉える	6
	6	「水の東西」山崎正和	・対比関係を用いながら論じる叙述方法を把握する	5
		「鏡」村上春樹	・人間の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く	5
	第1回考査			
	7	「砂に埋もれたル・コルビュジエ」原田マハ	・一冊の本にまつわる三人の人間の思いを読み取る	4
	8	『『文化』としての科学』池内 了	・科学と技術の違いを対比的に整理し、関係を理解する	6
	9	「不均等な時間」内山節	・論展開と対比構造を手がかりに筆者の主張を理解する	6
	第2回考査			
	10			
後期	10	「夢十夜」夏目漱石	・非日常の世界で登場人物が何を根拠に判断するのか読み解く	5
	11	「ものことば」鈴木孝夫	・具体と抽象の関係を整理して、筆者の主張を理解する	5
	12	「現代の『世論操作』」林香里	・筆者が提起された課題を理解し、現代社会へ問題意識を持つ	4
	第3回考査			
	1	「フェアな競争」内田樹	・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉える	6
	2	「無色の色」港千尋	・ネズミ色のイメージが変化する論展開と筆者の論拠を把握する	6
	3	「城の崎にて」志賀直哉	・文章の展開を読み取り、作中に示された生死観について考える	8
第4回考査				

5 その他

- 自学自習教材が週課題として位置づけられ、毎週はじめに提出があります。
- 現代の国語の授業では自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	言語文化	単位数	3単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>言語活動を通して、言語表現を国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
使用教科書副教材等	<p>教科書 高等学校 精選言語文化(東京書籍) 言文702</p> <p>副教材 四訂版 力をつける古文 ステップ1(数研出版) 進研 WINSTEP 古典1(新課程版)(ラーンズ) 三訂版 読解をたいせつにする体系古典文法学習ノート(数研出版) 改訂版 読解シリーズ 力をつける漢文 ステップ1(数研出版) 新版古典文法習得のための助動詞マスターノート(数研出版) 基礎から解釈へ漢文必携五訂版チェックノート基本編(桐原書店) 九訂版 読解を大切に体系古典文法(数研出版) 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版(桐原書店) プレミアムカラー国語便覧(数研出版) わかる・読める・解ける Key & Point 古文単語330(いっずな書店)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	「ちごのそら寝」(宇治拾遺物語) 訓読の基本 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) 「芥川」(伊勢物語) 故事成語「矛盾」「推敲」	定期考查など	定期考查など	課題の提出 授業態度
	評価点	50点	50点	50点
2回	「東下り」(伊勢物語) 「借虎威」(戦国策) 「丹波に出雲といふ所あり」(徒然草) 「晏子の御」(史記)	定期考查など	定期考查など	課題の提出 授業態度
	評価点	50点	50点	50点

3回	「九月二十日のころ」(徒然草) 「管鮑之交」(十八史略) 「馬のはなむけ」「帰京」(土佐日記)	定期考査など	定期考査など	課題の提出 授業態度
	評価点	50点	50点	50点
4回	絶句と律詩 「天の羽衣」(竹取物語) 「木曾の最期」(平家物語) 「論語」 「万葉集」「古今集」「新古今集」	定期考査など	定期考査など	課題の提出 授業態度
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	「児のそら寝」(宇治拾遺物語) ・古文(説話)の読解 ・品詞分類と用言の理解	6
	5	漢文 訓読の基本 ・訓読の基本的な基礎知識の習得	6
		「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) ・古文(説話)の読解	6
		「芥川」(伊勢物語) ・古文(歌物語)の読解 ・動詞の文法的説明の習得	6
	6	故事成語 「矛盾」「推敲」 ・故事成語の理解 ・訓読の実践的な習得	6
		第1回考査	
	7	「東下り」(伊勢物語) ・古文(歌物語)の読解 ・和歌の修辞技法の理解	6
		「借虎威」(戦国策) ・漢文の寓意の理解 ・漢文の句形の習得	6
	8	「丹波に出雲といふ所あり」(徒然草) ・古文(随筆)の読解 ・助動詞の理解と習得1	6
9	「晏子之御」(史記) ・史伝の読解 ・訓読の実践的な習得	7	
	第2回考査		
後期	10	「九月二十日のころ」(徒然草) ・古文(随筆)の読解 助動詞の理解と習得2	6
	11	「管鮑之交」(十八史略) ・史伝の読解 ・漢文の句形の習得	7
	12	「馬のはなむけ」「帰京」(土佐日記) ・古文(日記)の読解 文学史的な位置づけの理解	7
		第3回考査	
		絶句と律詩 ・近体詩の形式やきまりの理解と習得	6
	1	「天の羽衣」(竹取物語) ・作り物語の読解 ・助動詞の理解と習得3	6
		「木曾の最期」(平家物語) ・軍記物語の読解 ・敬語と音便の理解と習得	6
	2	「論語」 ・思想の読解 ・儒学の理解	6
		「万葉集」「古今集」「新古今集」 ・和歌の鑑賞 ・歌風の理解と習得	6
	第4回考査		

5 その他

○自学自習教材が週課題として位置づけられ、毎週はじめに提出があります。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
使用教科書 副教材等	教科書 現代の歴史総合 みる・読み解く・考える (山川出版社) 副教材 問いからはじまる歴史総合 (とうほう)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	〔第Ⅰ部 近代化と私たち〕 第1章 結びつく世界と日本の開国 第2章 国民国家と明治維新 ● 近代化と現代的な諸課題	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 プリントの記述分析
	評価点	50点	50点	50点
2回	〔第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 第3章 総力戦と社会運動 第4章 経済危機と第二次世界大戦	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 プリントの記述分析
	評価点	50点	50点	50点
3回	第4章 経済危機と第二次世界大戦 〔第Ⅲ部 グローバル化と私たち〕 第5章 冷戦と世界経済	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 プリントの記述分析
	評価点	50点	50点	50点
4回	第5章 冷戦と世界経済 第6章 世界秩序の変容と日本 ● 現代的な諸課題の形成と展望	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 プリントの記述分析
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第Ⅰ部 近代化と私たち〕 第1章 結びつく世界と日本の開国 1 18世紀の東アジアにおける社会と経済 2 貿易が結んだ世界と日本	6
	5	3 産業革命 4 中国の開港と日本の開国	14
	6	第2章 国民国家と明治維新 1 市民革命 2 国民国家とナショナリズム	
	7	3 明治維新 4 日本の産業革命 5 帝国主義 6 変容する東アジアの国際秩序 7 日露戦争と東アジアの変動 ● 近代化と現代的な諸課題	
	----- 第1回考査		
	8	〔第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 第3章 総力戦と社会運動 1 第一次世界大戦の展開 2 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	13
	9	3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4 世界経済の変容と日本 5 アジアのナショナリズム 6 大衆の政治参加 7 消費社会と大衆文化	
		第4章 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌の時代 2 ファシズムの伸長と共産主義	3
	----- 第2回考査		
後期	10	第4章 経済危機と第二次世界大戦 3 日中戦争への道 4 第二次世界大戦の展開 5 第二次世界大戦下の社会 6 国際連合と国際経済体制 7 占領と戦後改革	12
	11	8 冷戦のはじまりと東アジア諸国の動向 9 日本の独立と日米安全保障条約	
		〔Ⅲ グローバル化と私たち〕 第5章 冷戦と世界経済 1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化	2
	----- 第3回考査		
	12	2 東西両陣営の動向と1960年代の社会 3 軍拡競争から緊張緩和へ 4 地域連携の形成と展開 5 計画経済とその波及 6 日本の高度経済成長 7 アジアの中の日本	7
	1	第6章 世界秩序の変容と日本 1 石油危機 2 アジア諸地域の経済発展 3 市場開放と経済の自由化 4 情報技術革命とグローバリゼーション 5 冷戦の終結とソ連の崩壊	13
	2	6 現代の東アジア 7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 8 地域統合の拡大と変容 9 地域紛争と国際社会	
		10 現代と私たち ● 現代的な諸課題の形成と展望	

5 その他

- 様々な資料(歴史史料、グラフ、絵画など)から情報を取得し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、課題解決を視野に入れて構想する力を育成します。
- 歴史の学習によって獲得したいものは、特定の人物名、事象名に終始した知識ではありません。単元を学習していく中で、概念的な問いに対して多角的に考察し、自分の言葉で表現できるようになりましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	地理総合	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高校生の地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)</p> <p>副教材 新編地理資料2023(東京法令出版)</p> <p>問題集 高校生の地理総合ノート(帝国書院)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付け、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深めている。</p>
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	<p>第1章 地図とGISの活用</p> <p>①球面上の世界 ②世界から見た日本の位置と領域 ③国内や国家間の結び付き ④暮らしの中の地図とGIS</p>	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 課題等の記述分析
	評価点	50点	50点	50点
2回	<p>第2章 地理的環境の特色</p> <p>①地形と生活文化 ②気候と生活文化</p>	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 課題等の記述分析
	評価点	50点	50点	50点
3回	<p>第2章 地理的環境の特色</p> <p>③産業と生活文化 ④宗教・言語と生活文化</p>	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 課題等の記述分析
	評価点	50点	50点	50点
4回	<p>第3章 世界各地の生活文化</p> <p>①東アジア ②ASEAN諸国 ③南アジア ④イスラム圏 ⑤アフリカ ⑥EU ⑦ロシア ⑧アメリカ・カナダ ⑨ラテンアメリカ ⑩オセアニア</p>	定期考查等	定期考查等	授業中の行動観察 課題等の記述分析
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	1部 地図や地理情報システムと現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図	16	
	5	2節 地図と地理情報システム		
	6	2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域		
		2節 地図から見る国内や国家間の結びつき		
	第1回考査			
	7	2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活		20
	8	2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の産業と人々の生活		
		4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活		
	9	5節 多様な生活文化と地理的環境 ①東アジア ②東南アジア ③インド ④中央アジア・西アジア・北アフリカ ⑤サハラ以南アフリカ ⑥ヨーロッパ ⑦ロシア ⑧アメリカ合衆国 ⑨ラテンアメリカ ⑩オセアニア		
第2回考査				
後期	10	2部 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 人口問題	14	
	11	2節 食料問題		
		3節 都市・居住問題		
		4節 感染症・衛生問題		
		5節 資源・エネルギー問題		
		6節 地球環境問題		
	第3回考査			
12	3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境	18		
1	2節 地震・津波や火山活動による災害と防災			
	3節 気象災害と防災			
	4節 自然災害への備え			
2	2章 生活圏の調査と地域の展望	2		
第4回考査				

5 その他

- 図表や地図などから様々な情報を読み取る技能、それらの背景を考察する力、考察したことを生活に役立てる力を育成します。
- 授業プリントには、板書事項を書き写すだけでなく、必要な情報を書き込んでください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数と式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
	<p>教科書 数学 I (数研出版)</p> <p>副教材 新課程教科書傍用サクシード数学 I +A (数研出版)</p> <p>新課程チャート式基礎からの数学 I +A (数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	それぞれ分野についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、類似点や相違点を明らかにしたり、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件に着目し、数と式を目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し、考察する力、データの散らばりなどに着目し、分析し、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。
評価点	80点	80点	80点

3 評価の計画 (3回まで実施)

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	〔第1章〕数と式 〔第2章〕集合と命題 〔第3章〕2次関数	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	60点	60点	60点
2回	〔第4章〕図形と計量	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	10点	10点	10点
3回	〔第5章〕データの分析	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	10点	10点	10点
4回				
	評価点	点	点	点

4 指導の計画（3回まで実施）

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1章〕 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	16
	5	〔第2章〕 集合と命題	6
	6	〔第3章〕 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 第3節	28
		〔第4章〕 図形と計量 第1節 三角比	10
	7	◆-----第1回考査	
	第2節 三角形への応用 ◆-----第2回考査	5	
後期	11	〔第5章〕 データの分析 ◆-----第3回考査	5
		◆-----第4回考査	

5 その他

- 学習課題の定期的な提出があります。
- 学習する内容のまとめりに、基礎力テストを行います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学 I	単位数	4単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件などに着目し、数と式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
	<p>教科書 高等学校 数学 I (数研出版)</p> <p>副教材 新課程教科書傍用 基本と演習テーマ数学 I (数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	それぞれ分野についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、類似点や相違点を明らかにしたり、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件に着目し、数と式を目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し、考察する力、データを分析し、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	〔第1章〕数と式 〔第2章〕集合と命題	・定期考査	・定期考査	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・確認テスト等
	評価点	50点	50点	50点
2回	〔第3章〕2次関数	・定期考査	・定期考査	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・確認テスト等
	評価点	50点	50点	50点
3回	〔第4章〕図形と計量	・定期考査	・定期考査	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・確認テスト等
	評価点	50点	50点	50点
4回	〔第5章〕データの分析	・定期考査	・定期考査	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・確認テスト等
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1章〕 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	20
	5	〔第2章〕 集合と命題	14
	6	〔第3章〕 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	6
		◆-----第1回考査	
	7	第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	32
	8 9	◆-----第2回考査	
後期	10	〔第4章〕 図形と計量 第1節 三角比	28
	11	第2節 三角形への応用	
		◆-----第3回考査	
	12	〔第5章〕 データの分析	12
	1	総合演習	28
		◆-----第4回考査	

5 その他

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学Ⅱ	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、三角関数及び微分・積分の考え方についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 数学Ⅱ(数研出版)</p> <p>副教材 新課程チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)</p> <p>新課程教科書傍用サクシード数学Ⅱ+B(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できる。方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりすることができる。問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価点	80点	80点	80点

3 評価の計画(後期から実施)

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回				
	評価点	点	点	点
2回				
	評価点	点	点	点
3回	〔第1章〕式と証明 〔第2章〕複素数と方程式	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	20点	20点	20点
4回	〔第4章〕三角関数 〔第3章〕図形と方程式	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	60点	60点	60点

4 指導の計画（後期から実施）

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期		◆-----第1回考査	
		◆-----第2回考査	
後期	11	〔第1章〕 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明	10
	12	〔第2章〕 複素数と方程式 ◆-----第3回考査	12
	1	〔第4章〕 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	23
	2	〔第3章〕 図形と方程式 第1節 点と直線	25
	3	第2節 円 第3節 軌跡と領域 ◆-----第4回考査	

5 その他

- 学習課題の定期的な提出があります。
- 学習する内容のまとめりごとに、基礎力テストを行います

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学 A	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動に関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 数学 A(数研出版)</p> <p>副教材 新課程教科書傍用サクシード数学 I + A(数研出版)</p> <p>新課程チャート式基礎からの数学 I + A(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学と人間生活の関係について認識を深めている。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。事象に数学の構造を見だし数理的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価点	80点	80点	80点

3 評価の計画 (2回、および3回で実施)

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回				
	評価点	点	点	点
2回	〔第1章〕 場合の数と確率 〔第2章〕 図形の性質	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	50点	50点	50点
3回	〔第3章〕 数学と人間の活動	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・基礎力テスト等
	評価点	30点	30点	30点
4回				
	評価点	点	点	点

4 指導の計画（2回、および3回で実施）

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4		
	7	<div style="text-align: right;">第1回考査</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> [第1章] 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	30
	8		
後期	9	[第2章] 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 <div style="text-align: right;">第2回考査</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	13
	10	[第3章] 数学と人間の活動 <div style="text-align: right;">第3回考査</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <div style="text-align: right;">第4回考査</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	27

5 その他

- 学習課題の定期的な提出があります。
- 学習する内容のまとめごとに、基礎力テストを行います

年間指導計画表(シラバス)

科目名	物理基礎	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:高等学校 物理基礎(第一学習社)</p> <p>問題集:セミナー物理基礎(第一学習社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	[第1部 物体の運動とエネルギー] 第1章 運動の表し方	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
2回	第2章 様々な力とその働き 第3章 力学的エネルギー	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
3回	[第2部 様々な物理現象とエネルギーの利用] 第1章 波 第2章 熱	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題 ・実験ワークシート
	評価点	50点	50点	50点
4回	第3章 電気 第4章 エネルギーとその利用 第5章 物理学が拓く世界	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1部 物体の運動とエネルギー〕 第1章 運動の表し方	20
	5	1節 速さと等速直線運動 2節 直線運動の加速度	
	6	3節 落体の運動 ◆-----第1回考査	
	7	第2章 様々な力とその働き 1節 力とつり合い	8
	8	2節 運動の法則 3節 さまざまな運動とはたらく力	
		9	
	9	2節 運動エネルギーと位置エネルギー 3節 力学的エネルギーの保存 ◆-----第2回考査	8
	後期	10	〔第2部 様々な物理現象とエネルギーの利用〕 第1章 波
11		1節 波の性質 2節 音と振動	
		11	第2章 熱 1節 熱と温度
2節 熱の利用 ◆-----第3回考査			
12		第3章 電気 1節 電流と電気抵抗	9
1		2節 交流と電磁波	
2		第4章 エネルギーとその利用 1節 様々なエネルギー	9
3		2節 エネルギーの利用	
		第5章 物理学が拓く世界 ◆-----第4回考査	2

5 その他

- 第2部では観察や実験による探究活動を行い、科学的に探究する力を育成します。
- 学習課題の定期的な提出があります。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生物基礎	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高等学校生物基礎(第一学習社)</p> <p>副教材 セミナー生物基礎(第一学習社) スクエア最新図説生物(第一学習社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	〔第1章 生物の特徴〕	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
2回	〔第2章 遺伝子とその働き〕 〔第3章 ヒトのからだの調節〕 第1節 情報伝達と体内環境の維持	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
3回	〔第3章 ヒトのからだの調節〕 第1節 情報伝達と体内環境の維持 第2節 免疫	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
4回	〔第4章 植生と遷移〕 〔第5章 生態系とその保全〕	・定期考查等	・定期考查等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	[第1編] 生物の特徴 第1章 生物の特徴	
	5	第1節 生物の共通性 実験・観察 顕微鏡による細胞の観察とマイクロメーターによる測定	10
	6	第2節 生物とエネルギー 実験 酵素カタラーゼの働き	10
		◆-----第1回考査	
	6	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体とその構造 実験・観察 DNAの抽出 体細胞分裂の観察と細胞周期	6
	7	第2節 遺伝情報とタンパク質 探究活動 唾腺染色体の観察	4
	8	[第2編] ヒトのからだの調節 第3章 ヒトのからだの調節	
	9	第1節 情報の伝達と体内環境の維持	6
		◆-----第2回考査	
後期	10	第1節 情報の伝達と体内環境の維持 実験 心拍数の変化の測定	8
	11	第2節 免疫	6
	12	◆-----第3回考査	
	1	[第3編] 生物の多様性と生態系 第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移	5
		第2節 バイオーム	5
	2	第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性 第2節 生態系のバランスと保全	5 5
	◆-----第4回考査		

5 その他

- 観察や実験による探究活動を行い、科学的に探究する力を育成します。
- 学習課題の定期的な提出があります。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>自然の事物・現象と人間生活とのかかわりに理解を深め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを通じて、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高等学校 科学と人間生活(啓林館)</p> <p>副教材 サンダイヤル 高等学校 科学と人間生活学習ノート(啓林館)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	[第1部 生命の科学]	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
2回	[第2部 物質の科学]	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
3回	[第3部 光や熱の科学]	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点
4回	[第4部 宇宙や地球の科学]	・定期考査等	・定期考査等	・授業中の行動観察 ・実験レポート ・学習課題
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	[第1部] 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象徴 A タンパク質と遺伝子 B ヒトの視覚と光 C 血糖濃度の調節 D 免疫 第2章 微生物とその利用 A 生態系における微生物 B 微生物と人間の食生活 C 微生物と医学への利用 ◆-----第1回考査	12	
	5			
	6			
	6			
	7		[第2部] 物質の科学 第1章 材料とその利用 A プラスチック B 金属 C セラミックス血糖濃度の調節 D 資源の再利用 第2章 衣料と食品 A 医療の科学 B 食品の科学 ◆-----第2回考査	10
	8			
	9			
	6			6
	7			
10	[第3部] 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 A 光の進み方 B 光の波としての性質 C 電磁波とその利用 第2章 熱の性質とその利用 A 熱とは何か B エネルギーの利用 ◆-----第3回考査	9		
11				
12				
12		5		
12				
後期	1	[第4部] 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球 A 身近な天体 ~太陽と月~ B 潮の満ち引き C 太陽放射と地球 D 大気の運動 第2章 自然景観と自然災害 A 河川のはたらきによる景観と災害 B 地震による景観と災害 C 火山による景観と災害 ◆-----第4回考査	13	
	2			
	1		7	
	2			

5 その他

- 観察や実験などによる探究活動を行い、科学的に探究する力を育成します。
- 学習課題の定期的な提出があります。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	体育	単位数	3 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や 仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>本校体育実技用ファイル ステップアップ高校スポーツ(大修館)</p> <p>現代高等保健体育 (大修館)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。</p>
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	オリエンテーション 体づくり運動 選択Ⅰ 陸上競技、器械運動、水泳、ダンスから選択	スキルテスト ルールテスト等	ファイルの記述分析 授業中の行動観察	授業への参加状況 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
2回	選択Ⅱ 球技、武道から選択	スキルテスト ルールテスト等	ファイルの記述分析 授業中の行動観察	授業への参加状況 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
3回	体育理論 選択Ⅲ 球技、武道から選択	小テスト3回 スキルテスト ルールテスト等	ファイルの記述分析 授業中の行動観察	授業への参加状況 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
4回	体育理論 陸上競技 選択Ⅳ アルティメット	小テスト3回 スキルテスト ルールテスト等	ファイルの記述分析 授業中の行動観察	授業への参加状況 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	オリエンテーション 体づくり運動(集団行動、トレーニング、ラジオ体操等)	6	
	5	選択Ⅰ	18	
	6	陸上競技、器械運動、水泳、ダンスから選択 第1回考査		
	7	選択Ⅱ 球技、武道から選択 第2回考査	21	
		8		体育理論 スポーツの発祥と発展 「スポーツの始まりと変遷」「文化としてのスポーツ」「オリンピックとパラリンピックの意義」
	9	体づくり運動	3	
	後期	10	選択Ⅲ 球技、武道から選択	24
		11	第3回考査	
		12	体育理論 スポーツの発祥と発展 「スポーツが経済に及ぼす効果」「スポーツの高潔さとドーピング」「スポーツと環境」	3
1		陸上競技	15	
2		選択Ⅳ アルティメット	12	
3		第4回考査		

5 その他

- ・各種目の積極的な参加と運動の特性を理解し、自ら考え、工夫して取り組み、ゲームなどを楽しめるようになってほしい。
- ・自分の体力を知り、自己の体力の向上に何が必要か課題意識を持ち、具体的な目標設定ができるようになってほしい。
- ・運動技能の習得だけでなく、準備や後片付けなど協力共同の場面で積極的に行動してほしい。
- ・安全に配慮し、互いが協力しながら楽しく授業に参加してほしい。
- ・授業を休まない。また、見学をするときは、授業担当者に事前に申し出て、見学ノートを提出する。
- ・体操服を忘れない。また、体操服をきちんと着用する。
- ・授業開始時間を守る。(着替えを迅速にする。)

年間指導計画表(シラバス)

科目名	保健	単位数	1 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>現代高等保健体育(大修館) 現代高等保健体育ノート(大修館)</p> <p>ステップアップ高校スポーツ(大修館)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。	生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している	生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	1 単元 現代社会と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 感染症・エイズとその予防	・定期考査 ・授業中の行動観察	・定期考査 ・授業中の行動観察	・授業への参加状況 ・授業中の行動観察 ・提出物
	評価点	100 点	100 点	100 点
2回	2 単元 安全な社会生活 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	・定期考査 ・授業中の行動観察	・定期考査 ・授業中の行動観察	・授業への参加状況 ・授業中の行動観察 ・提出物
	評価点	100 点	100 点	100 点
3回	1 単元 現代社会と健康 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復	・定期考査 ・授業中の行動観察	・定期考査 ・授業中の行動観察	・授業への参加状況 ・授業中の行動観察 ・提出物
	評価点	100 点	100 点	100 点
4回	1 単元 現代社会と健康 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康	・定期考査 ・授業中の行動観察	・定期考査 ・授業中の行動観察	・授業への参加状況 ・授業中の行動観察 ・提出物
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	1 単元 現代社会と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防	10	
	5	14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症		
	6	16 感染症の予防 17 感染症・エイズとその予防		
		第1回考査		
	7	2 単元 安全な社会生活 01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全		8
	8	04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法		
	9	第2回考査		
	後期	10	1 単元 現代社会と健康 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	7
		11	01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防	
12		05 がんの治療と回復		
		第3回考査		
1		1 単元 現代社会と健康 06 運動と健康 07 食事と健康	10	
2		08 休養・睡眠と健康 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康		
3		11 薬物乱用と健康		
		第4回考査		

5 その他

「保健」という科目は、「健康を保つ」ことを学ぶ授業で、毎週1時間行われます。健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われる現状の中で、正しい情報を取り入れ適切な生活行動を選択できるようになることが求められています。「保健」では、自分や家族の健康を保持増進するための基本的な事項を理解するだけでなく、日常生活の中の課題を見つけ出し解決の方法を導き出すことができるような授業を展開します。日常生活において、空気と同じようにあって当然、なくなると困るもの、それが健康です。毎日の生活の中で「体の健康」「心の健康」に目を向けましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	教科書 MOUSA1(教育芸術社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	〔歌唱〕 斉唱、合唱、独唱 〔鑑賞〕 西洋音楽史	実技テスト 聴き取りテスト	ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	50点	50点	50点
2回	〔歌唱〕 合唱 〔創作〕 作詞作曲	作品 発表	作品 ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	50点	50点	50点
3回	〔器楽〕 三線 〔鑑賞〕 舞台芸術	実技テスト	ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	50点	50点	50点
4回	〔器楽〕 ギター 〔創作〕 リズム創作	実技テスト 発表	発表 ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔歌唱〕校歌(斉唱・合唱) イタリア歌曲「caro mio ben」 歌う身体作り	10
	5	合唱の基礎 イタリア語の発音	10
	6	〔鑑賞〕西洋音楽史 中世～近現代の音楽の特徴とその背景 第1回考査	
	7	〔歌唱〕合唱曲「おんがく」 合唱練習及び発表	8
	8	〔創作〕作詞作曲 楽典の基礎	8
	9	第2回考査	
後期	10	〔器楽〕三線「海の声」他 三線の構造、奏法 弾き歌い	5
	11	〔鑑賞〕舞台芸術 オペラ「カルメン」	5
	12	ミュージカル「レ・ミゼラブル」 〔鑑賞〕世界の音楽 世界諸民族の音楽 ボレロ 第3回考査	4
	1	〔器楽〕ギター「第三の男のテーマ」他 ギターの奏法 アンサンブル	10
	2	〔創作〕リズム創作 コップを使ったリズム創作	10
	3	アンサンブル 第4回考査	

5 その他

- 1日に2時間連続で授業があります。1時間は鑑賞や創作など座学中心、もう1時間は歌唱や器楽など実技中心です。
- 定期考査は実施しませんが、題材ごとに実技テストや聴き取りテストなどを行います。
- 合唱や小グループでのアンサンブルを行うため、積極的にコミュニケーションを取り授業に臨みましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高校生の美術1(日本文教出版)</p> <p>副教材 本校作成プリント 実技用具など</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	ミニレポートの制作 陶芸実習 I	・レポートおよび作品制作等	・レポートおよび作品制作等	・授業中の行動観察
	評価点	50点	50点	50点
2回	鑑賞(美術史) 油彩実習 I	・作品制作等	・作品制作等	・授業中の行動観察
	評価点	50点	50点	50点
3回	油彩実習 II (鑑賞を含む) 陶芸実習 II	・作品制作等	・作品制作等	・授業中の行動観察
	評価点	50点	50点	50点
4回	染色実習	・作品制作等	・作品制作等	・授業中の行動観察
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	ミニレポートの制作 関心のある美術分野や作品等について調査・発表を行い、美術に対する関心を深める ・レポートの制作と発表を行う	8
	5	陶芸実習Ⅰ 焼き物の技法と表現の基礎を学ぶ ・手練り、紐造り ・粘土の性質、釉薬の性質 ・用具の扱い方 第1回考査	12
	6	鑑賞(美術史) 西洋の美術について学ぶ ・ルネサンスを中心とした美術について 油彩実習Ⅰ 油絵の素材への理解と技法及び表現について学ぶ ・名画の模写をすることで絵画の魅力を探る ・油絵の特性や道具の扱いについて 第2回考査	4 12
	9	油彩実習Ⅱ 油絵の色彩表現及び質感表現について学ぶ ・絵具の混色・塗り方について ・質感表現について	6
	12	陶芸実習Ⅱ 焼き物の技法と表現の基礎を学ぶ ・粘土の性質、釉薬の性質 ・用具の扱い方 第3回考査	8
	1	染色実習 染物の技法と表現の基礎を学ぶ ・たまねぎ染め ・媒染液の性質 ・用具の扱い方 第4回考査	20
後期			

5 その他

--

年間指導計画表(シラバス)

科目名	書道 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 書道と社会や生活との関わりについて考え、生活を豊かにするための工夫を主体的に実践する態度を育成する。
使用教科書 副教材等	教科書 書道 I (教育出版) 副教材 大人字にかわるペン字練習帳(新星出版社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書に関する見方・考え方を働かせて、書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて書の創作的活動を通して理解するとともに、書の伝統に基づき、作品を工夫して表現するための技能を身に付け表している。	書の良さや美しさを感じ、書に関する見方・考え方を働かせて、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりしている。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	○漢字の書の学習 ・基本点画(楷書) ○仮名の書の学習 ・楷書に調和する平仮名 ・行書に調和する平仮名	・提出作品	・提出作品 ・授業ワークシート	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・振り返りシート
	評価点 150	50点	50点	50点
2回	○仮名の書の学習 ・古筆臨書 ○漢字の書の学習 ・篆刻(篆書)	・提出作品	・提出作品 ・授業ワークシート	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・振り返りシート
	評価点 150	50点	50点	50点
3回	○漢字の書の学習 ・楷書古典の臨書 ・楷書古典の倣書 ・行書古典の臨書 ○作品制作(創作)	・提出作品	・提出作品 ・授業ワークシート	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・振り返りシート
	評価点 150	50点	50点	50点
4回	○漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和 ・紙面構成 ・用具用材の工夫 ○書写能力を磨く(硬筆)	・提出作品	・提出作品 ・授業ワークシート ・ペン字練習帳	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・振り返りシート
	評価点 150	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	① 教科の特性について理解する。 書写と書道の共通点と発展事項について理解する。 用具・用材の特性と扱い方を理解する。	3
		漢字の書の学習(楷書)	3
	5	② 毛筆における用筆の基本事項を理解し実践を重ねる。 大筆、小筆、筆の持ち方、姿勢、など。 線質の違いを理解し実践を重ねる。直筆・側筆など。	6
	6	③ 仮名の書の学習 楷書に調和する平仮名を理解し習得に努める。 行書に調和する平仮名を理解し習得に努める。	8
	7		第1回考査
		◆----- 仮名(古筆)のさまざまな学習を通して技法を習得する。 (仮名の成立、用筆、運筆、連綿、変体仮名、古筆臨書、紙面構成など。)	8
		④ 漢字の書の学習(篆書) 篆書の特徴を理解する。 篆刻作品(姓名印)を制作する。	6
	9	⑤ 漢字の書の学習(楷書) 古典 (自書告身、牛ケツ造像記、鄭義下碑、雁塔聖教序)臨書作品を制作する。	2
			第2回考査
	10	◆-----	
後期		既習古典による倣書作品を制作する。	6
	11	⑥ 漢字の書の学習(行書) 古典 (蘭亭序、争坐位文稿)臨書作品を制作する。	8
	12	・条幅(半切 1/2)作品制作を通して条幅作品の様式を理解する。 ・紙面構成、文字の配置と余白の関係、潤濁、落款など。	
			第3回考査
	1	⑦ 創作作品を制作する。 これまでに学習した表現技法を生かし制作する。	10
	2	⑧ 漢字仮名交じりの書の学習 漢字と仮名の調和、紙面構成、用具用材の工夫などについて理解する。	8
	3	⑨ 書写能力を高める。 硬筆練習帳を完了させて提出する。	2
		第4回考査	
	◆-----		

5 その他

○ 各単元や授業で作品とワークシートの提出を求めます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高校生の美術1(日本文教出版)</p> <p>副教材 美術 表現と鑑賞(日本造形教育研究会/開隆堂出版株式会社)</p> <p>実技用具など</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すために必要となる、美術の基礎的な技能を身につけている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想をすることができ、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美に対する感動や、自己の考えを表現しようとしている。また、美術と生活や社会、自己との繋がりを感じ、それらを創造していく態度をもっている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	素材と用具	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート
	評価点 150	50点	50点	50点
2回	陶芸実習 水彩(卓上)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・鑑賞レポート
	評価点 150	50点	50点	50点
3回	美術史	授業内課題など	鑑賞レポートなど	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・鑑賞レポート
	評価点 150	50点	50点	50点
4回	立体構成	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・鑑賞レポート
	評価点 150	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	① 素材と用具 使用する用具、表現素材について学ぶ 配布する用具の特性とその使用法について学ぶ 用具と表現素材の適切な選択について学ぶ	6
	5	② 陶芸実習 陶芸の制作工程を学ぶ 道具の扱い方を学ぶ 粘土の性質について学ぶ 紐づくりによる成形方法について学ぶ	14
	7	◆-----第1回考查	
		③ 水彩画(卓上静物) 水彩絵の具の特性を学ぶ 水彩絵の具によるさまざまな表現の基礎的技法について学ぶ 題材を観察する際の着眼点や立体感・質感の表現技法について学ぶ	16
		◆-----第2回考查	
後期	10	④ 美術史 古代からルネサンスを中心に学ぶ 代表的な美術作品やその作者についての知識を深める	14
	12	◆-----第3回考查	
	1	⑤ 立体構成(ペーパークラフト) 立体構成の基本を学ぶ ペーパークラフトの特徴を学ぶ 立体作品の構成について学ぶ	20
	3	◆-----第4回考查	

5 その他

- 1年間を通して今後の表現活動の基盤となる発想力や表現力、鑑賞をする力などを実技演習を通じて育成します。
- 各単元や授業でワークシートやレポートの提出を求めます。

様式7

年間指導計画表(シラバス)

科目名	素描	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高校生の美術1(日本文教出版)</p> <p>副教材 美術 表現と鑑賞(日本造形教育研究会/開隆堂出版株式会社)</p> <p>実技用具など</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すために必要となる、基本的な素描の技能を身につけている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想をすることができ、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美に対する感動や、自己の考えを表現しようとしている。また、美術と生活や社会、自己との繋がりを感じ、それらを創造していく態度をもっている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	・遠近法 ・素描(自画像)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート
	評価点 150	50点	50点	50点
2回	・素描(人物・風景)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・課題レポート
	評価点 150	50点	50点	50点
3回	・素描(石膏像)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート
	評価点 150	50点	50点	50点
4回	・素描(卓上)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート
	評価点 150	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	① 遠近法 素描用具の扱い方 空気遠近法・線遠近法について学ぶ	6
	5 6	② 素描(自画像) 自画像を描く際の構図について学ぶ 形態のとらえ方や描法を学ぶ	14
		◆-----第1回考査	
	8	③ 素描(人物・風景) 素描の様々な技法について学ぶ 遠近法を用いた風景素描を学ぶ 形態のとらえ方や描法を学ぶ	16
		◆-----第2回考査	
後期	10	④ 素描(石膏像) 石膏素描の基礎について学ぶ 形の取り方、光源を意識した陰影表現を学ぶ 石膏像の量感を意識した細部の描写方法を学ぶ	14
		◆-----第3回考査	
	1	⑤ 素描(卓上) 形態のとらえ方や描法を学ぶ 素描(卓上)を描く際の構図について学ぶ	20
		◆-----第4回考査	

5 その他

- 1年間を通して今後の表現活動の基盤となる描写力・観察力などの基礎的な力を実技演習を通じて育成します。
- 各単元や授業でワークシートの提出を求めます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術基礎	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や微術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 高校生の美術1(日本文教出版)</p> <p>副教材 美術 表現と鑑賞(日本造形教育研究会/開隆堂出版株式会社)</p> <p>実技用具など</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すために必要となる、美術の基礎的な技能を身につけている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想をすることができ、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美に対する感動や、自己の考えを表現しようとしている。また、美術と生活や社会、自己との繋がりを感じ、それらを創造していく態度をもっている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	・色彩学 ・平面構成Ⅰ	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート
	評価点 150	50点	50点	50点
2回	平面構成Ⅱ	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・鑑賞レポート
	評価点 150	50点	50点	50点
3回	静物水彩	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・課題レポート
	評価点 150	50点	50点	50点
4回	油彩画実習(自画像)	制作作品など	制作作品など	・授業中の行動観察 ・授業ワークシート ・鑑賞レポート
	評価点 150	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	① 色彩学・平面構成 I 色彩を理論的に整理するための考え方について学ぶ(色の三要素) 色の見え方や美術作品の中での効果について学ぶ アクリル絵の具の特性を学ぶ イメージをテーマとした色彩構成について学ぶ ◆-----第1回考查	8	
	5		12	
	6		◆-----第2回考查	
	7		16	
後期	9	② 平面構成 II アクリル絵の具の特性についての考察を深める イメージをテーマとした色彩構成について学ぶ ◆-----第2回考查	◆-----第2回考查	
	10		③ 静物水彩画 透明水彩絵の具による水彩画技法と表現について学ぶ 透明水彩の特性を学ぶ 静物画を描く際の画面構成について学ぶ 水彩画の技法や色の効果について学ぶ ◆-----第3回考查	14
	12			◆-----第3回考查
	1		④ 油彩画実習(自画像) 頭部及び顔の骨格について理解して観察し、写實的・立体的に描写する 油彩による人物表現を通して自己表現について考察する ◆-----第4回考查	20
3	◆-----第4回考查			

5 その他

- 1年間を通して今後の表現活動の基盤となる発想力・構成力・表現力など表現に関する基礎的な力を実技演習を通じて育成します。
- 各単元や授業でワークシートの提出を求めます。

様式7

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション I	単位数	4単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	教科書 ELEMENT English Communication I (啓林館) 副教材 システム英単語 5 訂版(駿台文庫)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	Lesson 1 Lesson 2	・定期考查等 ・小テスト	・定期考查等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
2回	Lesson 3 Further Reading 1 Communication in Practice 1 Lesson 4	・定期考查等 ・小テスト	・定期考查等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
3回	Lesson 5 Lesson 6 Further Reading 2 Communication in Practice 2	・定期考查等 ・小テスト	・定期考查等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
4回	Lesson 7 Lesson 8 Communication in Practice 3	・定期考查等 ・小テスト	・定期考查等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Lesson 1 Intercultural Relation ships 5 文型 受動態 to 不定詞	15
	5	Lesson 2 Love beyond Species 現在完了形 現在完了進行形 分詞の限定用法 パフォーマンステスト①	15
	6	◆-----第1回考査	8
		Lesson 3 Contributing to Our Planet 関係代名詞 使役動詞	7
	7	Further Reading 1 Communication in Practice 1	15
	8	Lesson 4 Messages for World Peace 過去完了形 知覚動詞	15
	9	パフォーマンステスト② ◆-----第2回考査	
	10	Lesson 5 Respecting Each Other 関係代名詞の what 関係副詞	15
	11	Lesson 6 Language and Culture 関係代名詞の非制限用法 分詞構文 Further Reading 2	15
後期	12	Communication in Practice 2 パフォーマンステスト③ ◆-----第3回考査	15
	1	Lesson 7 Technology and Discoveries 形式主語の it be 動詞の補語になる that 節	10
	2	Lesson 8 Standing Up for Human Rights 仮定法過去 仮定法過去完了 過去完了進行形	10
	3	Communication in Practice 3 パフォーマンステスト④ ◆-----第4回考査	

5 その他

- 小テスト・課題等で知識・技能を高めていきます。
- Lesson ごとにワークシートに取り組むことで、知識・技能を活用する力を養います。
- パフォーマンステストは、「聞く」「読む」「話す[やり取り・発表]」「書く」ことのいずれかについて実施します。詳細は別途連絡します。

様式7

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション I	単位数	4単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常的话题や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	教科書 ELEMENT English Communication I (啓林館) 副教材 システム英単語 Basic 5 訂版(駿台文庫)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	Lesson 1 Lesson 2	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
2回	Lesson 3 Further Reading 1 Communication in Practice 1 Lesson 4	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
3回	Lesson 5 Lesson 6 Further Reading 2 Communication in Practice 2	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
4回	Lesson 7 Lesson 8 Communication in Practice 3	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Lesson 1 Intercultural Relations 5 文型 受動態 to 不定詞	15
	5	Lesson 2 Love beyond Species 現在完了形 現在完了進行形 分詞の限定用法 パフォーマンステスト①	15
	6 第1回考査	8
	7	Lesson 3 Contributing to Our Planet 関係代名詞 使役動詞	7
	7	Further Reading 1 Communication in Practice 1	15
	8	Lesson 4 Messages for World Peace 過去完了形 知覚動詞	15
	9 パフォーマンステスト② 第2回考査	
	10	Lesson 5 Respecting Each Other 関係代名詞の what 関係副詞	15
	11	Lesson 6 Language and Culture 関係代名詞の非制限用法 分詞構文 Further Reading 2 Communication in Practice 2	15
後期	12 パフォーマンステスト③ 第3回考査	15
	1	Lesson 7 Technology and Discoveries 形式主語の it be 動詞の補語になる that 節	10
	2	Lesson 8 Standing Up for Human Rights 仮定法過去 仮定法過去完了 過去完了進行形	10
	3	Communication in Practice 3 パフォーマンステスト④ 第4回考査	

5 その他

- 小テスト・課題等で知識・技能を高めていきます。
- Lesson ごとにワークシートに取り組むことで、知識・技能を活用する力を養います。
- パフォーマンステストは、「聞く」「読む」「話す[やり取り・発表]」「書く」ことのいずれかについて実施します。詳細は別途連絡します。

科目名	論理・表現 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域において、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなぎ付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店)</p> <p>副教材 総合英語 FACTBOOK English Grammar advanced NEW EDITION (桐原書店)</p> <p>総合英語 FACTBOOK これからの英文法 NEW EDITION (桐原書店)</p> <p>be English Logic and Expression I Smart My English Portfolio (いっぴな書店)</p> <p>文法がわかる！耳から覚える英語例文集(駿台文庫)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考査	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	UNIT 0~3 Thinking logically 1 Making a Speech	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
2回	UNIT 4~6 Thinking logically 2 Q & A after a Speech	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
3回	UNIT 7~8 Thinking logically 3 Making a Presentation	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
4回	UNIT 9~10 Thinking logically 4 Thinking logically 5	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	UNIT 0 UNIT 1	18	
	5	UNIT 2 Thinking logically 1 Making a Speech		
	6	UNIT 3 パフォーマンステスト 第1回考査		
	7	UNIT 4		
	8	Thinking logically 2 Q & A after a Speech UNIT 5		
	9	UNIT 6 パフォーマンステスト 第2回考査		
	10	Thinking logically 3 Making a Presentation UNIT 7		16
	11	UNIT 8		
	12	パフォーマンステスト 第3回考査		
後期	1	Thinking logically 4 UNIT 9	18	
	2	パフォーマンステスト UNIT 10 Thinking logically 5		
	3	パフォーマンステスト 第4回考査		

5 その他

- 小テスト・課題等で知識・技能を高めていきます。
- 副教材を使用して、Lesson ごとに「書く」技能を高める活動を行います。
- パフォーマンステストは、「話す[やり取り・発表]」、「書く」のいずれかについて実施します。詳細は別途連絡します。

科目名	論理・表現 I	単位数	2単位
		学年等	1年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域において、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の理解を深めるとともに、外国語の知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常的话题や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店)</p> <p>副教材 総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard NEW EDITION (桐原書店)</p> <p>総合英語 FACTBOOK これからの英文法 NEW EDITION (桐原書店)</p> <p>be English Logic and Expression I Smart My English Portfolio (いっずな書店)</p> <p>文法がわかる！耳から覚える英語例文集(駿台文庫)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、適切に活用できる技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	UNIT 0~3 Thinking logically 1 Making a Speech	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
2回	UNIT 4~6 Thinking logically 2 Q & A after a Speech	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
3回	UNIT 7~8 Thinking logically 3 Making a Presentation	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点
4回	UNIT 9~10 Thinking logically 4 Thinking logically 5	・定期考査等 ・小テスト	・定期考査等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・ワークシート等 ・パフォーマンステスト
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	UNIT 0	18	
		UNIT 1		
	5	UNIT 2 Thinking logically 1 Making a Speech		
	6	UNIT 3 パフォーマンステスト 第1回考査		
	7	UNIT 4		
	8	Thinking logically 2 Q & A after a Speech UNIT 5		
	9	UNIT 6 パフォーマンステスト 第2回考査		
	10	Thinking logically 3 Making a Presentation UNIT 7		16
	11			
	UNIT 8			
12	パフォーマンステスト 第3回考査			
1	Thinking logically 4 UNIT 9			
2	パフォーマンステスト			
	UNIT 10 Thinking logically 5			
3	パフォーマンステスト 第4回考査			
		18		

5 その他

- 小テスト・課題等で知識・技能を高めていきます。
- 副教材を使用して、Lesson ごとに「書く」技能を高める活動を行います。
- パフォーマンステストは、「話す[やり取り・発表]」・「書く」のいずれかについて実施します。詳細は別途連絡します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭基礎	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 家庭基礎(自立・共生・創造)(東京書籍)</p> <p>副教材 最新生活ハンドブック 2023(第一学習社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価点	220点	220点	220点

3 評価の計画

考查	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1回	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第10章 持続可能な生活を営む	定期考查等	定期考查等	学習課題等
	評価点	50点	50点	50点
2回	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	定期考查等	定期考查等	学習課題等
	評価点	50点	50点	50点
3回	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 3 共に生きる	定期考查等	定期考查等	学習課題等
	評価点	50点	50点	50点
4回	第7章 衣生活をつくる 第5章 共に生き、共に支える 第9章 経済生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	定期考查等 製作作品	定期考查等 学習プリントの記述 分析	学習課題等 実技テスト
	評価点	70点	70点	70点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1章 生涯を見通す オリエンテーション 1 人生を展望する	4
	5	2 目標を持って生きる 食品の衛生と安全	2 1
	6	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる	8
		2 家族・家庭を見つめる	
	7	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	5
		第1回考査	
	7	ホームプロジェクト	16
	8	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える	
		2 食事と栄養・食品	
		3 食品の選択と安全	
4 生涯の健康を見通した食事計画			
5 調理の基礎			
6 食生活の文化と知恵			
7 これからの食生活			
9	第2回考査		
後期	10	第3章 子供と共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る	8
	11	3 4 子どもと関わり、子どもとの触れ合いから学ぶ	
		5 これからの保育環境	
	12	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆高齢社会の到来	6
		2 高齢期の心身の特徴	
		3 これからの超高齢社会	
	1	第5章 共に生き、共に支える 3 共に生きる	2
		第3回考査	
	1	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	6
		2 3 被服を入手し管理する	
		4 衣生活の文化と知恵	
		5 これからの衣生活	
		第5章 共に生き、共に支える	
	2	1 私たちの生活と福祉	4
		2 社会保障の考え方	
	3	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定	6
		2 購入・支払いのルールと方法	
3 消費者の権利と責任			
4 生涯の経済生活を見通す			
5 これからの経済生活			
3	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	2	
	第4回考査		

5 その他

- 家庭基礎の授業では、生涯を見通して自分をしっかりみつめ、自分の価値観やライフプランを考えていきます。グループワークでは、多様な価値観や考え方を参考に自分の考えを深めてください。また、個人の生活と社会は密接に関係しています。よって、社会問題に関心を持ち積極的に社会との関わりが持てるように探究活動をしていきましょう。
- 授業での学びを、日常生活で実践していくことが大切です。常に自分ができる社会貢献について考えていきましょう。
- 生活で必要な基本的な技術を実習していきます。実習から課題を見つけ改善策を考え、実践していきましょう。